



新入職者紹介



事務長
早崎 光宏

成田記念病院にて17年間理学療法士として働かせていただき、8月1日付で当院へ異動してまいりました。このたび新天地にて新しい立場を与えていただき非常に身の引き締まる思いでございます。事務職とは医師、コメディカルの皆さまが働きやすい職場環境を整えることが務めであると認識していますので、そのようなお手伝いができればと

考えています。また患者さまはもちろん、地域の皆さまに愛される病院を目指し、リハビリ病院のパイオニアとして相応しい施設となれるよう精進してまいります。



看護師
熊留 留美子

12年ぶりの病院勤務ということで、不安と緊張の毎日ですが、患者様が懸命にリハビリに取り組まれる姿に日々勇気づけられています。これまでの経験を活かしつつも初心を忘れることなく務めてまいります。



看護師
佐々木 彩

成田記念病院から6月に異動になりました。回復期の看護についてまだまだ分からないことが多くありますが、日々勉強し頑張っていきます。患者様に寄り添い、患者様を笑顔にできるような看護を提供していきたいです。



介護福祉士
石谷 玲美

8月に介護福祉士として入職しました。以前は老人保健施設で勤務していました。患者様がより快適に楽しく過ごすことができるよう、関われるように頑張りたいと思います。



看護師
鈴木 華恵

急性期で学んだことを活かして頑張りたいと思います。チームの一員として患者様の退院後の生活を見据えた看護を提供していきます。



介護職員
佐野 千知

4月より入職し4ヶ月が経ちました。いつか先輩たちのように、患者様から信頼される介護職員になれる様にいつも笑顔で頑張っています。



理学療法士
室田 一哉

8月に入職致しました。以前は整形外科のクリニックと急性期の病院で理学療法を行っておりました。回復期の理学療法は初めての経験でまだ右も左も分かりません。一日でも早く患者様やスタッフの皆様に信頼される様に、そして患者様やご家族様の笑顔のため精進してまいります。

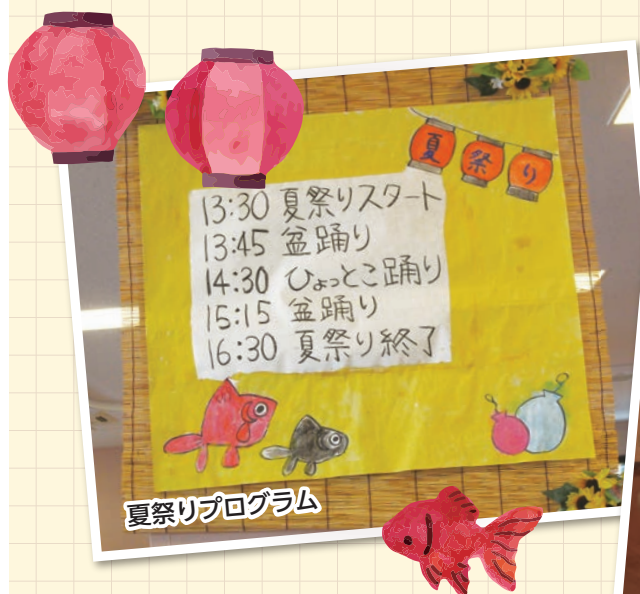
夏祭り

毎年恒例となっている夏祭りを、7月23日に開催致しました。今年も天気にも恵まれて、盛大に行う事ができました。

今回は日本を代表する踊りのひとつ、ひょっこり、職員による盆踊りに患者様も参加していただき大変盛り上がりしました。

ゲームや屋台で賑わい、患者様やご家族様、職員の笑顔でいっぱいの夏祭りとなり、楽しいひと時を過ごす事ができました。

来年もたくさんの笑顔が見られるように、職員一同頑張りますので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。皆様ありがとうございました。



避難訓練

6月23日、院内火災を想定した避難訓練を行いました。今回は消防署員の方も立ち合っていただき実施しました。スタッフ間での連絡や、避難方法などいくつかの問題点が残りました。消防署からは避難場所を臨機応変に対応することや、夜間を想定した訓練もするようにとご指摘を受けました。今後も検討を重ね改善していきたいと思います。人災による火災などは絶対に起こしてはなりません、天災は防ぐことができません。もし起きてしまったとしても二次災害を最小にいくとめる手段を持ち合わせていなくてはなりません。今回の訓練では消火器を使った消火訓練も行いました。普段なかなか使う機会のない消火器ですが取扱い方を覚え、緊急時に即座に対応できるように訓練しました。毎年行う避難訓練ですが、マンネリ化させないよう、危機感を持ちながら行えるよう企図していきたいです。

防災対策部会



Let's リハビリ ～アームスリングの紹介～

脳卒中を罹患した場合、病気になった脳の反対側の手足に運動麻痺が生じる場合があります。人によっては筋肉が緩くなることで、肩の関節に亜脱臼が生じる場合があります。症状が重度である場合、放置すると痛みが出現する可能性もあります。今回は亜脱臼の増悪予防として、当院

で使用しているアームスリングを紹介します。手全体の重さをスリングで支える事で、亜脱臼や疼痛の増悪を予防する事が可能です。ただ1日中装着し続ける事で、関節が拘縮（硬くなって運動に制限が生じる事）する可能性もある為、定期的なストレッチも必要です。



作業療法士から

皆様、いかがお過ごしでしょうか。今回は6月に開催した患者・家族勉強会でお話した「認知症について」を振り返ってみたいと思います。

認知症とは色々な原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために様々な障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態のことを言います。認知症をもの忘れと混同してしまうことがあります。違いがありますので下記に記します。認知症ともの忘れの違いで特徴的なことは、認知症の症状はだんだんと進行し、判断力が低下し日常生活に支障をきたしてしまうことです。

	老化によるもの忘れ	認知症
原因	脳の生理的な老化	脳の神経細胞の変性や脱落
もの忘れ	体験したことの 一部を忘れる (ヒントがあれば思い出す)	体験したことを 丸ごと忘れる (ヒントがあっても思い出せない)
症状の進行	あまり進行しない	だんだん進行する
判断力	低下しない	低下する
自覚	忘れっぽいことを自覚している	忘れたことの自覚がない
日常生活	支障がない	支障をきたす

次に、認知症の中でもアルツハイマー型認知症に関し修正可能な危険因子があると近年の研究で発表されていますのでご紹介します。

① 喫煙 ② 低身体活動 ③ 低教育水準

④ 高血圧 ⑤ 糖尿病 ⑥ 肥満 ⑦ うつ

この中で低身体活動とは家に閉じこもりがちになり、日常生活での活動が低下することです。運動を心掛け、その運動を習慣化することで肥満や糖尿病予防にもつながっていきます。次に低教育水準ですが、解釈としては教育水準の高低だけでなく常に「好奇心・関心を持つ」ことだと思います。趣味活動や役割などを持つ・持ち続けることが有用かと思います。

また、認知症とうつに関する研究では、ヨーロッパでうつ病患者2220人を6年間追跡した調査によると、うつ病から軽度認知障害へ移行し、最終的にアルツハイマー型認知症に移行した人が85%に上ったといえます。一方、うつ病でない人が軽度認知障害へ移行したのはわずか32%でした。こうした、実際に若いうちにうつ病になった人はアルツハイマー型認知症になりやすいというデータがあります。ストレスからうつ病になる方が近年増えています。うつにならないためには、ストレスへの耐性をつけること、ストレスを発散する方策を持つこと、ストレスの少ない環境調整をすることが重要です。

上記に挙げた7つの危険因子は、日常生活の改善や生活習慣の見直しで修正できることです。またこれらは、他の病気のリスクを減らす因子でもあるので、あてはまる因子が多かった方は改善できるように努めていただければと思います。

作業療法士 大井 宏泰

編集後記

秋の気配を感じられるようになってきました。体を動かしたり、読書をするのによい季節です。本誌もお役に立てる情報を発信していきたいと思います。

看護師 杉浦 早弓

病院基本理念

「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、
住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。



社会医療法人 明陽会

第二成田記念病院

〒440-0855 豊橋市東小池町62-1 TEL. (0532) 51-5666
http://www.meiyokai.or.jp/narita2/ FAX. (0532) 55-0660